

『奈良国立文化財研究所年報』の 再出発にあたって

装いを新たにした3分冊構成の『奈良国立文化財研究所年報』をお届けします。

奈良国立文化財研究所は、文化財を調査研究し、その成果を公表する機関として、1952年に設立され、その調査研究の成果は、設立直後の1954年以降、『奈良国立文化財研究所学報』や『奈良国立文化財研究所史料』、春と秋の公開講演会、発掘調査の現地説明会と発掘調査概報、その他各種の出版や催しものの開催などによって、公表、普及に努めてきました。

『奈良国立文化財研究所年報』は、やや遅れましたが、1959年に発刊しました。一般にみられる年報は業務報告と要綱などを主としたものでしたが、研究機関の年報では調査研究成果の速報が中心となるべきだ、と先輩諸氏は考え、それをめざすものとして発刊したのです。今では入手できない最初の20年分に近い年報が復刻されたことがありましたが、それはかつて刊行した年報が今なお研究資料として活用されているからでしょう。

最初の年報の発刊後40年近くが経過しました。その間に平城宮跡や藤原宮跡、飛鳥地域の発掘調査も大規模になり、年報でもその成果の概報部分が増加しました。そのために、発掘調査とならんで多面的に展開している調査研究に関する速報部分が十分でない傾向は否めませんでした。一方、発掘調査の概報は毎年別に刊行しており、年報掲載分とかなり重複するところもあって、整理が必要となっていました。

新装の『奈良国立文化財研究所年報』では、第1分冊は発掘調査以外の文化財に関する多様な調査研究の成果の速報を中心に研究所の要綱をあわせて構成し、発掘調査成果の概報は第2・3分冊にまとめることとしました。

『奈良国立文化財研究所年報』は再出発します。これでその年度に実施した調査研究のすべてが網羅できるものではありませんが、その主要な成果については速報できるとみています。ご一読ください。そして、われわれの奈良国立文化財研究所の活動について、忌憚のないご意見をお寄せいただくことを願っております。

奈良国立文化財研究所
所長 田中 琢

1997年9月30日